新河岸川のあらまし(10)

旧河道の跡と254バイパス工事

前号で取り上げた左岸側の廃棄物不法投棄現場の川から見て後ろ側一帯、≪赤野毛排水路→廃棄物処理施設の集積地→武蔵野線→内間木公園・クリーンセンター→新盛橋東交差点≫は、大正~昭和の改修工事以前に新河岸川が蛇行を繰り返していた旧河道の跡が残る地帯です。昔は自然に囲まれた場所でしたが、30年ほど前から廃棄物処理施設が集まり始めるとともに様変わりし、現在は旧河道の跡は非常にわかりにくくなっています。この部分は254バイパスのルートなので、数年後には旧河道跡は全く無くなってしまうでしよう。

新盛橋を過ぎ、右岸にある朝霞ガーデン(釣り堀)の池が連なっている部分も旧河道の跡です。 その下流の広場『わくわく田島緑地』のところで 右岸から黒目川が合流します

水質がよく魚も多い黒目川

黒目川は小平霊園に源流があり、上流部では南 沢湧水など豊富な湧水で知られる落合川が合流 しており、中流部の新座市でも湧水で有名な妙音 沢が川沿いにあるなど、水質の良い川です。かつ ては豊富な水を利用し、水車の動力で銅を伸ばす 伸銅産業が盛んでした。

朝霞市の東上線の上流部では改修工事を巡って市民団体と県が長い話し合いを続けた結果、当初の画一的な設計から本来の川の自然な営みを再現するような多自然な川づくりが実現しました。水質の良さに、こうした努力も加わり、多くの魚類が生息・遡上しています。

新河岸川との合流点付近は海の潮位の影響がよく見て取れます。舟運時代の根岸河岸は黒目川を少し上った笹橋付近にありました。

朝霞調節池

黒目川合流点の向い側、左岸に接して緑に覆われた朝霞調節池があります。新河岸川の増水時に川の水を越流させて貯留し、下流域の洪水を低減させる効果があります。2008年に竣工し、容量は

天田 眞

53万㎡で、新河岸川流域の調節池では最大で、国 土交通省が管理しています。内部は普段も水が溜 まっている池を中心にアシ原や広大な森があり、 敷地の傍らを、すでに完成済みの254バイパスが 高架で通っています(朝霞大橋)。



朝霞大橋から見た新河岸川(右)・黒目川(左)合流点、挟まれた部分がわくわく田島緑地、右側が朝霞調節池



新河岸川(左)・黒目川(右)合流点から下流方向、前方は朝霞大橋、干潮時間で右手前が干潟状になっている



朝霞大橋から見た朝霞調節池 手前の草地から池の向こ うの森まで全て調節池だが、全体はこの2倍ほどある